

発表課題 2 1

「ニホンジカの効率的捕獲のための取り組みについて」

群馬県林業試験場 企画・自然環境係 坂庭浩之

1 課題を取り上げた背景

ニホンジカの増加が全国的な問題となっており、新植林地での食害、若齢林での樹皮剥ぎなど林業経営においても大きな打撃となっています。また、奥山など自然環境を保全すべき地域においても、希少な自然植生への過剰な食圧が発生し、生物多様性の劣化が懸念されています。一方で、林業地などでシカの捕獲を進めるにあたり、その捕獲効率（1%以下）の悪さやツキノワグマの錯誤捕獲などの問題が指摘されており、効率的かつ適切に捕獲する手法の開発が求められています。

2 具体的な取組

捕獲効率を高めるため、餌を用いた捕獲試験を行い、年間を通じてどの餌の選択が高いかなどを把握する共に餌誘引の有無による捕獲効率の差を検証しました。また、錯誤捕獲を抑制するため「クマが壊せるわな」によるシカの捕獲を実証しました。

3 取組の結果

(1) 餌として、鉱塩、食塩、乳牛用配合飼料、ハイキューブ、圧ペントウモロコシによる試験を行ったところ、ハイキューブ、乳牛用配合飼料、鉱塩の選択性が比較的高く、季節による変動がある事が確認されました。

表 1 誘引に有効な餌

期間	有効な餌
4～6月	圧ペントウモロコシ、鉱塩
7～8月	誘引効果なし
9～11月中旬	圧ペントウモロコシ、配合飼料
11月下旬～降雪まで	鉱塩、ハイキューブ
降雪以降	ハイキューブ



図 1 誘引されるシカ



図 2 壊せるくくりわな

- (2) クマが壊せるわなとして、金属ワイヤーの代わりにトラロープ(直径8^{ミリ})と結束バンド、新設計スプリングにより新型くくりわなを試作しました。わなの作動はスムーズでシカの捕獲が可能である事が実証できました。
- (3) 誘引と新型くくりわなによる捕獲を実施したところ、12器で延べ212日の架設を行い7頭のシカを捕獲しました。平均捕獲率は3.3%であり、最も捕獲できたわなは16.7%の効率でした。
- (4) わなの破壊については、錯誤捕獲されたタヌキによるロープのかみ切りが確認され、口を積極的に使える獣類では壊せることを確認しました。
- (5) 新型くくりわなは、個体への損傷が小さく、この手法により3頭のシカにGPS首輪を装着して放獣しました。

4 まとめ

餌による誘引により、従来1%以下であった捕獲効率を数倍に高めることが分かりました。これにより、早期にシカ被害の減少の効果が期待できます。また、奥山など錯誤捕獲への対応が困難な場所では、「クマが壊せるわな」は、シカを選択的に捕獲でき、クマの錯誤捕獲を抑制するツールにつながる可能性が示唆されました。今後、現場で実証試験を継続して、実用化に向けた取り組みを進める考えです。

※参考 URL : http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/no_13/bulletin13_13.pdf